



発行  
みどり  
**水土里ネットとっとり**

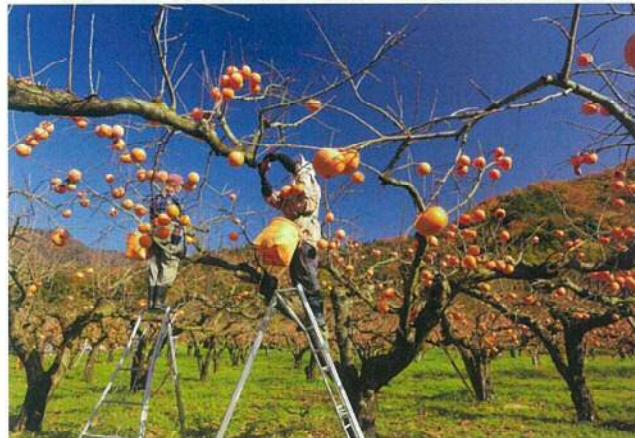
鳥取県土地改良事業団体連合会

〒680-0911 鳥取市千代水四丁目37番地

TEL (0857) 38-9500 FAX (0857) 38-9577

<http://www.totirengogonet.or.jp>

印刷所 日ノ丸印刷株式会社



特選「ふるさとの春」(上段右)、準特選「実りの秋」(下段左)、「夕暮れのらっきょう畑」(下段右)

<b>目次</b>	○第42回全国土地改良大会岐阜大会	2
	○農業農村整備に関する意見交換会	3
	○『美しく豊かなむらづくり大会2019』を開催	4~5
	○令和元年度第2回「農業農村整備の集い」の開催	6~7
	○令和元年度中間監査を実施	7
	○中部土地改良事業推進協議会が三重県で視察研修	8
	○高校生が本会でインターンシップ	9
	○とっとり水土里の女性会が富山県で視察研修	10
	○とっとり水土里の女性会座学研修会を開催	10
	○大口堰土地改良区が山白川の施設見学を実施	11
	○大井手土地改良区が「大井手探検隊」を実施	11
	[シリーズ]	
	○元気女子発見隊 Real Voice	12
	○編集後記	12

## 第42回全国土地改良大会岐阜大会

第42回全国土地改良大会岐阜大会が10月16日（水）、岐阜メモリアルセンターで、『清流で未来をうるおす土地改良～水土里の恵みを新たな世代へ～』を大会テーマに掲げ、全国土地改良事業団体連合会・岐阜県土地改良事業団体連合会主催により、全国の土地改良関係者約4,000名参加のもと盛大に開催され、本県からは、34名の方が参加されました。

式典では、まず、岐阜県土地改良事業団体連合会 藤原勉会長が「先人達から受け継がれてきた農地・農業施設・農村、この大切な財産は、新たな世代へ確実に引き継いでいかなければなりません。土地改良事業に携わる私達は、希望に満ち、明るい農業・農村を実現するために総意を結集し、土地改良事業を強力に推進する決意を新たにしたい。」と開会挨拶されました。続いて、全国土地改良事業団体連合会 二階俊博会長が「現在、来年度の予算編成作業が進められておりますが、更なる高みを目指していくためには、皆さん、やはり『闘って行く』。前進のためには、これしかありません。『闘う土地改良』は続きます。皆様方の更なるご支援・ご尽力をお願いする次第であります。本日ご参集の皆様には、明日から現地視察が予定されております。今まで、『土地改良』が、今日の岐阜県の農業農村に果たしてきた役割を肌で感じて頂き、改めて、我々に課せられた使命の重要性を認識して頂ければ幸いです。」と主催者挨拶されました。また、古田肇岐阜県知事が歓迎のことば、伊東良孝農林水産副大臣、野田聖子衆院議員、進藤金日子参院議員、宮崎雅夫参院議員が来賓挨拶されました。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰（6名）、農村振興局長表彰（16名）、全国土地改良事業団体連合会長表彰（41名）がそれぞれ表彰され、本県からは大口堰土地改良区 高見則夫理事長が農村振興局長表彰、また赤崎町土地改良区 石賀昭一理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。

基調講演では、「未来を潤す土地改良」と題して農林水産省 奥田透農村振興局次長が講演され、続いて岐阜県の優良地区事例紹介がありました。

最後に、次期開催県である群馬県土地改良事業団体連合会 熊川栄会長へ大会旗が引き継がれ、閉幕となりました。



で愛ドーム前での記念撮影



高見理事長（左）と石賀理事長（右）

## 農業農村整備に関する意見交換会

10月23日(水)に鳥取県庁特別会議室(議会棟3階)において、農業農村整備に関する意見交換会(農林水産省キャラバン)が農林水産省から農村振興局2名、中国四国農政局3名、中国土地改良調査管理事務所1名及び東部土地改良事業推進協議会(高見理事長、湯邨理事長、中嶋理事長)、中部土地改良事業推進協議会(山崎理事長、石賀理事長、田中理事長)、西部土地改良事業推進協議会(陶山南部町長、田辺理事長)、県土連(榎本会長、中村常務理事)の出席のもと開催されました。

最初に、(1)農業農村整備事業関係の概算要求の概要(2)土地改良区と多面的機能支払活動組織の連携強化(3)今後の農業農村整備の展開について(4)土地改良事業を契機とした農村地域の振興事例の説明がありました。説明の中で、「土地改良事業は、裁量的経費に属しており、骨太方針(閣議決定)に位置付けられているので、概算要求額が120%となっている。」「大区画、農地集積が前提条件となるが、生産コストの低減を目指して、スマート農業に対応した基盤整備を進めることとしている。」「中山間直接支払では、遡及返還措置の見直しを行っている。」等々ありました。

次に、各推進協議会出席者が順次、意見・要望を行いました。内容としては、以下のとおりです。

- ・ため池の改修にかかる費用について
- ・地域の農業情勢と課題について(耕作放棄地、集落営農、機構事業)
- ・法改正に伴う複式簿記会計システムの指導について
- ・多面的機能支払における広域化と長寿命化整備計画書について
- ・施設の維持管理に係る負担軽減について
- ・中山間地域農業の多面的な役割について
- ・農道の維持・補修について
- ・市街化区域内の土地改良施設の維持管理について



意見交換会の様子



注： 計数は四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

## 『美しく豊かなむらづくり大会2019』を開催

11月7日(木)に「ハワイアロハホール」(湯梨浜町)において『美しく豊かなむらづくり大会2019』を開催しました。当日は、会員はもとより、多面的機能支払活動組織など約500名の参加がありました。開会にあたり、榎本会長から「我々土地改良区が果たしてきた役割については、大きな意味合いがありました。これからも農業・農村の礎である「水」、「土」、そして「里」を守り、発展させ、活力ある農業・農村を次世代に引き継ぐために、力を併せて努力をしていかねばなりません。」と挨拶がありました。



榎本会長挨拶

続いて、来賓の中国四国農政局 皆川次長、鳥取県農林水産部 中西次長より祝辞を頂きました。また、当日出席が叶わなかった国会議員については、代理の出席を頂きました。なお、宮崎雅夫参議院議員については、ビデオメッセージを頂きました。

引き続き、土地改良功労者表彰(個人表彰)が行われ、永年に亘り土地改良に功績のあった福島公明鴨ヶ池土地改良区理事長他11名の方が受賞されました。



土地改良功労者表彰記念写真



会場の様子

### 【土地改良功労者一覧表】

所属団体名	職 名	氏 名	所属団体名	職 名	氏 名
岩美土地改良区	理事長	神谷 博文	鴨ヶ池土地改良区	理事長	福島 公明
天神野土地改良区	理事長	衣笠 義人	箕蚊屋土地改良区	理 事	大谷 正明
国光土地改良区	理 事	早田 博之	南部町土地改良区	(前)理事	加納 立身
久米土地改良区	理 事	松島 博文	尾高井手土地改良区	理 事	松村 博隆
赤碕町土地改良区	理 事	小松 一雄	大山町名和土地改良区	理 事	野口 清
北条水系土地改良区	(前)理事	前田 茂樹			

続いて、(株)兎ッ兎 前岡美華子代表取締役より「農業発 ヒューマンプラットフォームとしてのワイナリーの役割」と題して、ご講演頂きました。講演の冒頭では、「鳥取の地でワインを造ることになった経緯について」「人財育成を目的に、相手の意欲を引き出すコミュニケーション技術であるコーチングに取り組む中、日々の生活の中で農業を通じて人と人がつながれる場所をつくれないかと思い、兎ッ兎ファームを開設した。」と話されました。経営方針は、以下のとおりとされていました。

①多様な参画をもたらす次世代農業の推進

地域の多様な人たちが多様な形で参画できる場と機会の提供を通じて、農業・商工業・教育・福祉などを一体的に行える新しい6次産業を創出する。

②地域特性を活かしたものづくりの推進

当地のぶどう栽培技術と酒をたしなむ文化を通じて、新たに鳥取ワイン文化を創出する。

③プラットホームとしての地域コミュニティと中山間地域の活性化推進。

多様な人が集い、コーチングによる対話の広がりと場の提供を通じて止まり木の役割を果たし、夢と未来を育み共に歩んでいく。



前岡美華子代表取締役

子どもがその可能性を試せるキャンパスに  
その子の夢が親を育て、祖父母を支え、地域を盛る



休憩後、「スマート農業で、中山間地域をどう変えるか」と題して、最初に、真庭市寄江原でスマート農業の実証試験をすることになった経緯等を真庭市役所 中島一郎主幹が説明されました。そして、農事組合法人寄江原 矢萩正孝代表理事組合長が当法人の概略とスマート農機、実証試験の説明をされました。その中で、農家を減らさない努力として、①今まで圃場へ足繁く通って状態を把握してきたが、スマート化によって速やかにデータ管理・蓄積ができる項目が増えた。②担い手として、スマート化に必要なスキルを若手やUターン者にも担当してもらいたい。③中山間地の農業をスマート化によって活性化したい。と話されました。この実証結果については、岡山県真庭農業普及指導センター 西川尚徳副参事より説明がありました。



矢萩正孝代表理事組合長



最後に、天島清憲副会長の挨拶で閉会となりました。来場された方には、数に限りがありますが、「とっとり水土里の女性会」の皆さんのが、活動として遊休農地で栽培した、おいしいサツマイモが配布されました。

## 令和元年度第2回「農業農村整備の集い」の開催



11月11日（月）砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」（東京都）にて、全国水土里ネット主催による「農業農村整備の集い」が、全国の農業農村整備関係者約1,300人が参集し開催されました。本県からは、土地改良事業団体連合会 榎本会長、中村常務、東部土地改良事業推進協議会 湯邨理事、西部土地改良事業推進協議会 福島監事が参加しました。

農林水産省からは江藤拓農林水産大臣のほか、農林水産副大臣、政務官など農林水産省幹部の出席があり、政府与党からは森山裕自民党国会対策委員長、塩谷立自民党農林・食料戦略調査会長、西川公也内閣官房参与、進藤金日子、宮崎雅夫全国水土里ネット会長会議顧問など衆参国會議員137人の出席がありました。

全国土地改良事業団体連合会 二階俊博会長は「今年も前線に伴う大雨や台風の暴風雨などにより、多くの災害が発生しています。お亡くなりになられた方々の御冥福をご出席の皆さんとともに心からお祈り申し上げたいと存じます。関係の皆様及び被災された多くの皆様に衷心よりお見舞い申し上げると同時に、再びこのようなことがないように我々はいかに対処しないといけないか、政権を担っている自由民主党として、十分このことに配慮していかないといけないと考えています。皆さんのご協力をお願い申し上げます。さて、来年度の予算編成作業が進められておりますが、更なる高みを目指していくためには、皆さん、やはり「闘って行く」決意、姿勢が大事であります。「闘う土地改良」は続きます。皆様方の更なる御支援・御尽力を御願いし、私の挨拶と致します。」と挨拶されました。

最後に、国に対する以下の要請書が読み上げられ、全会一致で採択され、閉会となりました。

- 一 農林水産業は国の基であり、土地改良はその根幹を成すものである。土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、令和二年度予算について、現場のニーズに応えられるよう、必要な予算を確保すること。
- 二 今般の台風第十九号をはじめとした、近年の大規模災害からの復旧・復興を早急かつ加速度的に進めること。その際は、原形復旧に止まらず、再度災害防止のための措置についても、必要に応じて講じること。
- 三 農業の競争力強化の実現のため、野菜等の高収益作物の導入や、農地集積・集約化を促す農地の大区画化・汎用化と水田の畑地化をより一層推進すること。
- 四 農村地域の国土強靭化の実現のため、老朽化した農業水利施設の長寿命化及び豪雨・耐震化対策等をより一層推進すること。
- 五 特に、防災・減災、国土強靭化のための三か年緊急対策について、令和二年度で確実に完了するよう、十分な予算措置を講じるとともに、令和三年度以降の対策について、必要な検討を行うこと。
- 六 本年四月に施行された改正土地改良法の適切な運用を図るため、その普及啓発に努めるとともに、土地改良区や組合員の声に真摯に耳を傾け、複式簿記の導入など土地改良区の運営基盤の強化に対する支援を推進すること。
- 七 「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」について、引き続き、広く国民に向けてその周知を図るとともに、現場の実態をよく踏まえた上で、必要となる財政的支援等を講じること。

これを受け、鳥取県関連の国會議員事務所を訪れ、要請書の提出を行いました。



衆院議員 石破茂事務所にて



衆院議員 赤沢亮正事務所にて



参院議員 青木一彦事務所にて

## 令和元年度中間監査を実施

令和元年度第2回監事会を11月29日（金）鳥取県土地改良会館において、監事3名（田中大倉土地改良区理事長、西垣岩美町長、椎木大山土地改良区理事長）の出席のもと10月末時点の事業実施状況や予算執行状況について中間監査を実施しました。

### 報告事項

- (1)定期監査の指摘等事項の処理について
- (2)令和元年度経営目標の達成状況について
- (3)令和元年度事業実施における課題について
- (4)令和元年度予算への取り組みについて

### 監査

- (1)法令・定款・規約及び諸規程遵守に関する事項
- (2)事業計画及び業務の執行に関する事項
- (3)会計事務及びこれの処理に関する事項
- (4)賦課金に関する事項

## 中部土地改良事業推進協議会が三重県で視察研修

中部土地改良事業推進協議会(会長 山崎正美)は、11月21日～22日に三重県内において視察研修を行いました。この研修は、土地改良事業の推進、調査研究を行う目的で隔年で実施しており、土地改良区役員ほか18名の参加がありました。

視察研修は立梅用水土地改良区を視察し、改良区の中村豊實理事長から概要説明、改良区の関連会社 一般社団法人ふるさと屋の高橋幸照氏より立梅用水の歴史を紙芝居形式で面白おかしく説明を受けました。また、立梅用水は、かんがいはもとより9つの機能(防災、小水力発電、生活維持、観光・地域活性化、地域教育・福祉、農村環境保全、生態系保全、歴史的遺産保全、農村協働力・自治形成)が評価され、農業用水では全国初の国「登録記念物」に登録され、その活動内容と多面的機能支払交付金を活用した様々な取組みについて説明を受けました。



高橋幸照氏による紙芝居形式での説明の様子



立梅用水土地改良区にて

翌日は、松阪農業公園ベルファームを視察し、株式会社松阪協働ファーム代表取締役 岩森政明氏によると、平成16年に松阪市が100%出資する財団法人ベルファームとしてスタートしたが、お土産物と有料庭園であり、リピーターや地元からの集客が伸び悩み、経営が難しくなった。その後、平成19年にJA、森林組合、NPO法人が出資し、指定管理者制度の下で、民間企業として生まれ変わり、日常来園者を増やすために直売所の建設、庭園の無料化、直売所を柱とした事業の展開、地域の各種団体組織(行政、民間、地域、NPO)の力を協働して問題を解決していく取組みを実施していると説明を受けました。



松阪農業公園ベルファームにて



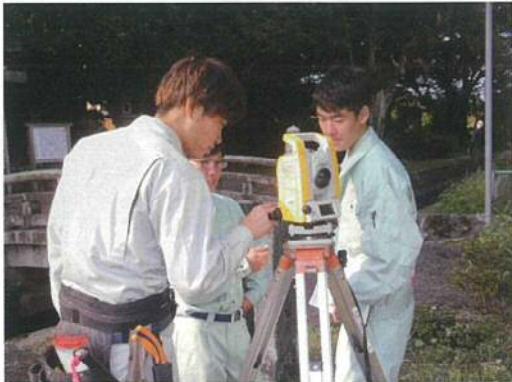
岩森政明氏より説明

今回は、遠方で時間的な制約もあり慌ただしさもあった視察研修でしたが、内容の濃い充実した研修となりました。

## 高校生が本会でインターンシップ

10月28日～10月31日の4日間、鳥取湖陵高校緑地デザイン科2年生三谷帆久斗さん、中原聖太さんが本会で実習されました。

実習内容は、①事務業務実習②地籍調査実習③土地改良施設診断研修④農業集落排水管路・処理施設実習⑤C A D実習他でした。



測量機器の設置及び計測



測量杭の設置



処理施設内にて



管路調査

### 【インターンシップを終えて】

4日間のインターンシップを通して、普段の授業では取り扱うことのないものを使って体験したり、知らなかったことをたくさん学べました。4日間の短い間だったけど、ひとつひとつのことがとてもいい勉強となり濃い4日間でした。インターンシップで学んだことをこれからの中学校生活や進路選択の参考になりました。4日間丁寧に教えていただきありがとうございました。本当にお世話になりました。

緑地デザイン科 2年 三谷帆久斗

4日間のインターンシップでは、初めて体験することが多く戸惑うこともありました。そんな中、皆さんのが丁寧に教えて頂き、とても楽しく学ぶことが出来ました。

この4日間で得たものは、今までの高校生活で学んできたことに匹敵すると僕は感じています。この経験は、今後の勉強や選択にとても重要なものとなりました。4日間、お世話になりました。

緑地デザイン科 2年 中原 聖太

## とっとり水土里の女性会が富山県で視察研修

とっとり水土里の女性会(会長 檀床和子)は、10月24日(木)～25日(金)に富山県内において視察研修を行いました。この研修は、富山県の女性会との交流を通して、今後の活動の参考とすることを目的としており、また富山県の射水平野土地改良区の取り組みについても現地視察を行いました。今回の視察研修は9名の参加がありました。



射水平野土地改良区視察の様子



富山県女性会との意見交換会

射水平野土地改良区の京谷直和氏の説明によると、射水平野は昔は腰まで浸かって農作業が行われるほどの湿田地帯でしたが、昭和38年から国営射水平野農業水利事業及び付帯県営事業により、排水施設が整備され乾田化されました。現在でも24時間排水を行い、地域を水害から守る役割を担っているとのことでした。当改良区では、農水省事業では珍しく、イクリの里という展示場が整備され、訪れる者に地域の歴史と事業内容を伝えています。

意見交換会では、富山県女性会から8名、全土連から1名が参加し、両県の女性会の紹介と、どのような活動を行っているのかなどの話し合いをしました。全土連から出席された野口直子氏からは、全国の女性会の活動状況が報告され、全国ですでに14県が設立したとの事で、さらに今年度中に3県立ち上げ予定であると話がありました。

他県の女性会との交流を深め、また他県の土地改良区の現状を知ることが出来、充実した研修となりました。

## とっとり水土里の女性会座学研修会を開催

11月28日(木)倉吉体育文化会館において、とっとり水土里の女性会座学研修会を開催し、21人の会員が参加しました。

檀床会長の挨拶の後、「自分のペースで楽しむ」と題して、大山町で女性獵師をしている町会議員の池田幸恵氏に講演して頂きました。講演の中で「徳島県で生まれ、義務教育後は、同じ家庭内でも月ごとに生活費を貰い、食事から何から自分でやることが母親の教育方針だった。結婚し鳥取に来たが、3年連続でイノシシに米をやられたことがきっかけで、狩猟免許をとることを決めた。自慢できる大山町に、この先ずっとここで住みたいと思える場所にしたいという思いで町会議員となった。」と笑いを交えて話されました。

参加した会員からは、「いろんな面で共感できた」「いつもポジティブで嬉しい！」等、たくさん刺激、やる気を頂かれたようでした。

今年度は、この研修会でほぼ活動終了となります。来年度に向けて何かございましたら、会員からの意見・要望を受付します。



講師の池田幸恵さん

## 大口堰土地改良区が山白川の施設見学を実施

大口堰土地改良区(鳥取市)は、11月1日午前と午後に分けて、美保小学校の5年生(126名)を対象に施設見学を実施しました。最初は山白川の頭首工に赴き、千代川からどのように取水をしているのかを見学し、その後は樋門、最後は宮長排水機場を見学しました。

子ども達は土地改良区が農業農村で果たす役割や400年近く農業用水として使われている山白川の頭首工など配水施設の仕組みや現状について勉強しました。また山白川の宮長排水機場の見学では、県の職員が子ども達に排水機場の仕組みを説明しました。

この施設見学は、大口堰土地改良区が平成25年から地元4校の小学生を対象に順番に行っており、農業の現状や水路について次代を担う小学生に理解を深めてもらうために行ってています。



高見理事長の挨拶



宮長排水機場見学

## 大井手土地改良区が「大井手探検隊」を実施

「大井手探検隊」は毎年、大井手土地改良区(鳥取市)が主催となって平成16年から実施されており、今年度は10月17日に大正小学校4年生(24名)、10月28日に美和小学校4年生(16名)、11月11日に河原第一小学校4年生(35名)が参加しました。最初に河原城より大井手川全体を展望し、その後転倒堰、サイホン、揚水機場を訪れその役割を勉強しました。午後からは大井手川を作った戦国武将・亀井茲矩公の居城跡散策や亀井茲矩公墓所へ赴き、お墓参りをしてイベントを終えました。

この大井手探検隊により大井手川の役割、土地改良区の役割、農家の人の苦労や工夫を、農業を通して、また、水路の持つ多面的機能を説明し、子ども達にそのことを学んでもらいました。

大井手土地改良区では小学校からの依頼により川や水路、土地改良区の役割を知ってもらうイベントを継続して行っています。



河原城より大井手川を望む



サイホンの説明

## 元気女子発見隊 Real Voice

元気に活躍されている  
女性職員を順次ご紹介!



今回は、鳥取県西部総合事務所農林局地域整備課木美昭子さん（とっとり水土里の女性会メンバー）をご紹介します。



8月に育児休業から復帰しました。伯耆町・米子市・日吉津村を流れる海川排水路改修事業や中海干拓地に関する業務を担当しています。たまにドローンで事業実施地区の写真撮影や上空からの調査をしています。職場や家族の理解、バックアップのおかげで、仕事と子育ての両方に向き合えることに感謝する日々です。

子どもは1歳4ヶ月になり、毎朝すすんで保育園に行きたがるワンパクボーイです。外で走り回るのが大好きで、休みの日の公園散策が欠かせません。最近は食べ物の好き嫌いが出てきましたが、お米とさつまいもが大好きです。

子どもが生まれてから、時間の使い方がガラッと変わりました。子どもが起きているうちは、常に子どものすぐ側に控えていないと烈火のごとく怒り泣かれます。特に夕方は甘えん坊モードで、保育園から帰って私が台所でご飯の準備を始めると、ベビーサークルを壊しそうな勢いでゆすり、泣き叫びます。子どもにご飯を食べさせて（ご飯中はとびっきりのニコニコ顔）、さあ私もご飯を食べようとすると「あんぎゃー！」と怪獣坊やに変身。「100%自分に向き合って！」とすごいアピールです。私もご飯、食べたいのですが…。今しかない貴重な瞬間だとわかりつつ、子どもと1対1で向き合うのは非常に疲れます。先輩ママ方の「もうちょっとしたら楽になるから！」という言葉を信じて踏ん張っています。また、最近は昼間、保育園か公園で思いっきり遊び回り、夜はすぐに寝てくれる所以、自分の時間を少しずつ持てるようになってきました。

最近のマイブームは子どもが寝た後の刺し子・編み物・読書です。刺し子は出産後、中断していた1枚を一針一針、縫い進めています。編み物は去年間に合わなかつた子どもの冬の帽子づくりを再開したのですが、どこで間違ったのか、大人サイズに仕上がってしました。読書は十二国記の18年ぶりの新刊を大事に読み進めています。ほかにも、吹奏楽（トロンボーン）やカラオケ、登山・ランニング（お休み中）も好きで、自分の時間がいくらあっても足りません。吹奏楽は職場のサークルの仲間と児童福祉施設で演奏します。いつか子どもに演奏を見てもらおう、「かあちゃん、かっこいい！」と言ってもらえたならうれしいです。

こういった息抜き時間のおかげで仕事にも子育てにもハリが出て前向きに取り組めています。もう少し自分の時間がとれるようになったら、登山・ランニングを再開したり、SUPやドローンレースにも挑戦したいです。また、これからは子どもの「好き」や「やりたい」と一緒にチャレンジしていくのが楽しみです。



（次回は、東伯町土地改良区 山下裕子さんをご紹介します。）

### 編集後記



美しく豊かな村づくり大会2019も、皆様の参加のおかげで盛況に開催できることとなりました。ありがとうございました。その時の講演のテーマの1つになっていましたが、スマート農業は、現在国が進めている、農業政策のキーワードとなっています。これからも注目していきたいと思います。